

# 「ひきこもり」支援で まず気を付けることは？

先月号の『広報そうじゃ』で「ひきこもりは愈げではない」ということをお知らせしました。ひきこもりの当事者は、学校や仕事などで何かに追い込まれた結果、引きこもることで必死に自分の居場所をつくり出そうとしています。周りの人は、引きこもっている当事者の表面だけを見がちで、無理やり引っ張り出そうとする場合もあります。しかし多くの場合、状態を悪化させることになりかねません。ひきこもり支援で、まず注意すべきことは何なのでしょう？

## ひきこもり支援の基本は「受け入れること」

受け入れるというのは、放っておくことではありません。当事者の発言や態度を、最初から否定しないようにするという事です。

### case 1 生活リズム

昼夜が逆転した不規則な生活だとしても、いきなり注意しないようにします。これは、家族としてはつらいところ。本人の健康のためにも、生活リズムを整えさせたいと思ってしまう。しかし、規則正しい生活を苦痛としている本人に強制することは、状態の悪化につながることもあります。

本人が少し動き出せそうなときに、昼間の家事を頼んでみる、外出に誘ってみることなどから始めるようにしましょう。



### case 2 部屋の掃除

どんなに散らかっている部屋であっても、勝手に入って掃除するのは良くありません。掃除をするならば、たとえ親であっても必ず本人の同意を得てから行うのが原則。「だらしなさ」も、まずは、ありのままを受け入れることが大切です。



実際に接していくうえでは、当事者の事情も違い、状態によって支援内容は異なります。ひきこもり支援センター「ワンタッチ」では、ひきこもりに関するあらゆる相談について、専門のスタッフが一緒に考えていきます。家族からの相談でもかまいません。一度、話してみませんか？

**問い合わせ**  
市ひきこもり支援センター「ワンタッチ」  
☎0866-92-8597  
Eメール soudan@sojasyakyo.or.jp

QRコードで簡単にメール作成



「ワンタッチ」QRコード

# インターネット通販大手の アマゾン Amazonが進出



アマゾン岡山フルフィルメントセンターの内部



棚に並べられた商品



箱に商品を詰め、発送のためコンベヤーに乗せる

市内で新規企業の進出が相次いでいます。市の東の玄関口である長良地区では、平成25年に岡山総社IC流通センターがオープン。物流倉庫としては中四国と九州で最大規模となる、グローバル・ロジスティック・プロパティーズ（GLP）の物流倉庫が建設されました。この物流倉庫に新規企業が続々と入居。5月には、インターネット通販大手のアマゾンジャパン（東京都）が稼働しました。

## Amazonとは？

Amazonは、アメリカ合衆国ワシントン州シアトルに本拠を構えるウェブサービス会社。日本では、Amazon.co.jp（アマゾンジャパン合同会社＝東京＝）が運営している。同社は、平成12年にアマゾンジャパン株式会社として設立。ウェブサイトを通じて、家電や食品、電子書籍リーダーなどの商品を販売している。Amazon全体の取り扱い商品は数億種類にも及ぶ。

アマゾンジャパンは、GLPから物流倉庫（GLP岡山総社II）の1階フロア約1万2000㎡を賃借。書籍、家電、日用品などを保管し、インターネットで注文があった商品を梱包・発送します。同社の国内拠点（フルフィルメントセンター）は、これまでに東京や埼玉などの8都府県で整備されており、総社市が14カ所目。施設の規模や従業員数などは公表されていません。山田健司センター長は、「岡山を中心に顧客満足度を上げていきたい」と話しました。6月26日には、地域貢献の一環として内覧会を開催。物流について学習していた総社東小学校の5年生39人と市長が招待され、普段見ることのできない在庫棚や梱包作業を見学し、理解を深めていました。

**問い合わせ** 企業誘致対策室（☎08279）